



令和4年度学校だより5月号

東の風光る

歴史と文教の城下町 たかなへ
高鍋町立高鍋東中学校
 Municipal Takanabe East Junior High School
 自立の精神に燃え、広く敬愛する心を持ち、たくましい創造力を発揮する生徒の育成



子に過ぎたる宝なし



子どもはどんな宝より大切である。「子に勝る宝なし」「千の倉より子は宝」など、多くのことわざで表されています。

高鍋東中生は、まさに家庭、学校、地域の宝です。

ふるさと講話

4月22日、各学年ふるさと講話がリモート形式で行われました。1年生は「明倫の教え」を中心に本町の歴史や文化を学びました。2年生は、「高鍋の空襲」を中心に、平和の尊さについて学びました。3年生は、「町づくり」を中心に本町の取組について学びました。それぞれ講師の方に来ていただき講話をしていただいたところです。その様子は、既に宮崎日日新聞に掲載されました。3年生の感想を紹介します。

「私たちの町おこし」

町おこしについての講話がありました。本町に行っている「町おこし」のことをほとんど知らず、「高鍋ってそんなことやってる？」と思いました。しかし、私が普通に知っている「桜祭り」や「灯ろう祭り」等も町おこしの一つだと知りとても驚きました。「灯ろう祭り」では、地域の大工さんや高校生までたくさんの人たちが協力していることを知りました。また、私たちが行っていた浜辺の清掃なども町おこしの一部だと知り、少しでも役に立てていることに嬉しく感じました。

高鍋は、宮崎で一番小さい町だけど、海にも山にも面していて自然豊かで魅力があります。今日は、町おこしの方など多くの方が高鍋のために頑張ってくれていることを知り感謝するとともに、私はそういうことを考えたこともなかったので恥ずかしく思いました。

私は将来県外に出ることがあるかもしれませんが、それでも宮崎に帰ってきたいなと思いました。

自分にそれを言う資格があるか 文献（内外教育）から大学生を対象としたある調査で、1日の読書時間を「0」と答えた大学生が半数以上と報じられた。高校までの読書習慣の低下が大きいと分析されている。私は、読書は言葉を豊かにし、言葉は思索や感性、想像力を豊かにすると考えているので、もったいないと思う。小中高の間に読書の習慣を「標準装備」にしましょうよ。これが一つ目。

こういうニュースがあると、「今の学生は・・・」と悪く言う人がいる。（中略）その話を聞いたときに、大人にそれを言う資格があるのかと考えてしまう。

（中略）最近、教育、学校をめぐる報道された出来事の一つに、とても複雑な思いを抱いている。自分ならどうしただろう、どうにかできただろうか、いろいろなことを考える。

コミック版が出てまた注目されている「君たちはどう生きるか」（中略）勇気を出して行動できる大人がどれだけいるだろうか。また、そうできない自分に言い訳をせず、これほど真剣に恥じたり苦しんだりする大人がどれだけいるか。君たちはどう生きるか。それは、子供や若者に与える課題ではなく、大人を含め、一人一人がどんな人間であるかを試される、真剣勝負の問い掛けだと思う。

考えさせられる記事でしたのでこの紙面に掲載させていただきました。私たち大人の生き様が、これからの世の中を支える若者達に大きく影響することを改めて感じるところです。

令和4年度教職員



今年度は、特にチャレンジ精神で授業改善、学力向上に努めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします！！



高鍋東中生の心
 整理整頓し、床が磨かれた教室は、誠なる東中生の心の現れである。キラリとした眼差しで臨む授業は、たのもしき東中生の心の現れである。自分を見つめる「正姿黙想」は、「自立」し、誇りある東中生の心の現れである。率先し行う「目立て」は、「敬愛」し、支え合う東中生の心の現れである。「気つき、築く」の「無言清掃」は、「創造」し、ひたむきな東中生の心の現れである。母校を愛し、発展させる東中生は、まさに学校、家庭、地域の宝である。



【後記】「高鍋東中生の心」このような学校に勤務できることは幸せです。生徒たちには、ゴールデンウィークですが、楽しく充実した生活をしてほしいと願います。（校長）

※ この学校だよりについては、生徒が活躍する場面について、氏名やアップ写真を積極的に紹介したいところですが、ホームページに掲載する関係で掲載しないようにしていることをご理解ください。
 高鍋町立高鍋東中学校 〒884-0002 児湯郡高鍋町大字北高鍋3321番地 ☎:0983-23-0046 Fax:0983-22-3437 ※ 生徒たちの様子をぜひ学校ホームページでもご覧ください。